

## 中国社会をいかに捉えるか

園田茂人（大学院情報学環&東洋文化研究所 教授）

\*現代の中国社会は「どのような」社会か？根拠を挙げて論じてみてください。以下のダイオトミー以外で的確な形容詞があれば、これを挙げてください。

伝統／近代  
独裁／民主  
閉鎖／開放  
停滞／発展  
安定／不安定  
社会主義・共産主義／資本主義

\*1940年代の平野・戒能論争：中国農村慣行調査をベースにした華北農村の性格をめぐる論争

平野義太郎：中国に「村落共同体」がある  
戒能 通孝：中国に「村落共同体」はない

\*同じ調査プロジェクトに参加していながら、なぜ異なる解釈が出てくるのか？

- 1) 事実をめぐる解釈の違い：例)「会首」の性格
- 2) 解釈の背後にある理念の違い：平野の「大アジア主義」と戒能の「近代市民社会肯定論」（岸本, 2006）

\*過去の論争と現在の環境の違い

- 1) 「豊かな」社会の誕生：「アジア的停滞」を語っていた時代の「社会科学」
- 2) 中国人研究者による研究成果の発信と「内部の視点」の重要性に関する認識の高まり：ポスト・コロニアルという時代状況がもたらしたもの
- 3) 豊富なデータ、多様な研究上のアプローチ：研究環境の変化がもたらす研究スタイルへのインパクト

\*なぜ中国社会像は焦点を結ばないのか？

- 1) 脅威論・崩壊論・覇権論：思い込みや寄って立つ視点によって異なる像と、多面体としての中国理解のむずかしさ（図1～図4）
- 2) 外の視点と内の視点の大きな違い：「歪んでいる」のはどちらの方か？
- 3) 異なる像を生み出す理由：認識枠組み（frame）・データや方法論・扱っている時間的スパン

\*日本の世論に根強く見られる「中国脆弱論」：中国の体制は本当に不安定なのか？不安定であるという根拠はどこにあるか？

\*講義の後半が挑戦する課題：

社会問題の深刻化で、社会的不満が爆発（social volcano）するだろうか？

\*中国社会の「体質変化」：学歴の高度化（図5）と富裕化の拡がり（図6，7）が政府への評価を変える？

\*点から線へ：時系列分析の重要性

\*政策に対する評価：広がる環境破壊（図8）や貧富格差の格差（図9，10，11）、役人の腐敗が市民の怒りを生む？

\*では、政府に対する信頼は急落したか（図12）：脆弱説で説明できないのはなぜか？

\*政策評価は低いが、政府は信頼する！：正統性を左右する重要な変数としての「暮らし向き」（図13，表1，2，3）

\*社会科学が抱える「間主観性」という厄介な課題：観察する側の論理・観察される側の多様性

1) われわれは中国を「内在的に」理解しさえすればよいのか？

2) なぜ中国脆弱論が受け入れられている社会と受け入れられていない社会があるのか？

\*中国研究における「方法論」の重要性：データ過多時代における新しい「倫理」

## 文献

岸本美緒，2006，「中国中間団体論の系譜」『「帝国」日本の学知 第3巻 東洋学の磁場』岩波書店所収。

園田茂人編，2008，『中国社会はどこへ行くか』岩波書店。

園田茂人，2008，『不平等国家 中国』中公新書。

園田茂人編，2013，『はじめて出会う中国』有斐閣。

高原明生他編，2014，『東大塾 社会人のための現代中国講義』東京大学出版会。

毛里和子・園田茂人編，2012，『中国問題：キーワードで読み解く』東京大学出版会。